

事業の背景・目的

生息環境の変化や外来種等の影響により、生息地、生息数が大きく減少している千葉県内のミヤコタナゴを保全するための事業を実施する。

令和4年度は、初年度の事業を踏まえ、モニタリング等を継続して実施する。さらに2年分のモニタリング調査の結果をもとに、状況が芳しくない生息地において生息環境の改善を行う。



事業の内容

事業ア モニタリング事業

県内生息地及び、過去に生息が確認されていた地点を含む探索地点において、本種を含む水生生物の生息状況の調査を実施した。

事業イ 生息環境整備事業

モニタリング事業で調査を行った地点のうち、ミヤコタナゴの生息環境が芳しくない地点を1か所選定し、外来種駆除等の生息環境の整備を実施した。

事業ウ 飼育環境改善事業

千葉県産ミヤコタナゴの系統保存施設にて、1年目に実施した人工繁殖体制の整備に合わせて、飼育設備の改修を実施した。

得られた成果

事業の成果

ア. 県内の生息地及び探索地点について、令和3年度に引き続き、ミヤコタナゴの生息状況等を把握することができた。

イ. 生息地点の1か所において、本種と競合する外来タナゴ類を一定数駆除することができた。

ウ. 系統保存施設において、人工繁殖手法に合わせた飼育環境を整備することができた。

今後の展望

ア. 令和5年度以降もモニタリングを継続して実施するとともに、今年度までの結果を踏まえ、試験放流の実施に向けた検討を行う。

イ. 外来種の駆除は今後も継続的に実施し、本種の生息地内での個体数の自然増加を図る。またアライグマによる産卵母貝である二枚貝の食害が示唆されたため、アライグマ対策についても早急を実施していく。